

(別紙)

病気と感染症の登園基準について

- ① 小児喘息、ひきつけ、関節がはずれやすい、アレルギー性疾患、薬品に負けやすいなど保育を行う上で注意しなければならないことがある場合は、必ずお知らせ下さい。
- ② こども園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。登園に関しては、以下の配慮をお願い致します。
 - ・園内での感染症の集団発症や流行につながらないこと。
 - ・子どもの健康(身体)状態がこども園での集団生活に適応できる状態に回復していること。
- ③ 主な病気と登園停止期間は、次のとおりです。登園の際は、医師の診断を受け、登園届をこども園に提出して下さい。

感染症名・病名	感染しやすい時期	登園の目安
麻疹(はしか)	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ	症状がある期間(発症前24時間から発症後3日程度までが最も感染力が強い)	発症した後5日を経過し かつ解熱した後3日を経過するまで
風しん	発しん出現の前7日から後7日くらい	発しん消失してから
水痘(水ぼうそう)	発しん出現1~2日前からかさぶたができるまで	すべての発しんがかさぶたになってから
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過し全身状態が良好になるまで
結核		医師により感染の恐れがないと認めるまで
咽頭結膜熱(プール熱)	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
流行性角結膜炎	充血、目やにとう症状が出現した数日間	結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合 咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで 又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による
腸管出血大腸菌感染症 (O157、O26、O111等)		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、 48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
急性出血性結膜炎	ウイルスが呼吸器から1~2週間 便から数週間~数ヶ月排出される	医師により感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎		医師により感染の恐れがないと認めるまで
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前後1日間	抗菌薬内服後24~48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、 普段の食事がとれること
伝染性紅班(リンゴ病)	発しん出現前の1週間	全身状態がよいこと
ウイルス性胃腸炎 (ノロ、ロタ、アデノ等)	症状のある間と、症状消失後1週間 (症状消失後数週間ウイルスを排泄しているので注意)	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間 (便の中に1ヶ月程度ウイルスを排泄しているので注意)	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、 普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発しんがかさぶたになってから
突発性発しん		解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと